

10 図書・学術情報に関する事項

図書館は、各学部、各研究科及び研究所等における教育・研究に必要な学術情報を広くかつ系統的に収集・整理および保存管理を行い、これらを学生及び教職員の利用に供し、本学の教育・研究活動を支援する中心的機関としての役割を担っている。この図書館の基本的機能と役割については、今後も堅持していく必要がある。

それと同時に図書館には、特に教育支援に果たすべき新しい役割が求められている。5長においては「龍谷スタンダードの形成」が主眼目として挙げられており、図書館においても学士課程教育の実質化に対応した機能の再構築が求められていくこととなる。具体的には、後述する「龍谷ラーニングcommons」(仮称)の構築等の施策の展開である。

これら新展開事業に加えて、従来どおり、学術資料収集においては、各種データベースを始めとする電子媒体普及の現状を踏まえ、従来の紙媒体に限らない多様な学術情報の収集に務めていくことを計画している。特に、外部データベースの効果的・効率的な導入にあたり、その基準と今後の展開計画を策定することは喫緊の課題である。教育活動支援では、学術資料収集とあわせ、学術資料を学生が有効に活用できるように、授業とリンクした利用者教育の展開を行う。研究活動支援では、場所と時間に関係なく利用可能な電子媒体の収集を主眼とし、紙媒体とのバランスの良い収集を目指す。

また、本学における研究成果や学術的価値の高い資料の社会的還元を認識し、学位論文をはじめとした研究成果物ならびに図書館が所蔵する古典籍・貴重資料のデジタル化を行い、広く学内外へ公開することや、展覧開催による一般市民への資料公開を行う。

なお図書館では、これら多岐にわたる課題の中でも、特に5長において具体化が急がれる事項(①図書館における学習支援機能の充実、②外部データベースの効果的・効率的な導入)について図書委員会ワーキンググループを設置し、関係教職員が参画し事業の具体化を検討する方策を開始している。

1 図書・学術情報を活用した教育支援

●「龍谷ラーニングcommons」(仮称)構想の具体化

図書委員会ワーキンググループにおいて、図書館の新しい学習支援環境である「龍谷ラーニングcommons」(仮称)構想の具体化を計る。ラーニングcommonsは、印刷資料や電子情報を含む多様な情報資源と情報設備、さらにそれらを活用するための学習空間および人的サービスを統合した学習支援環境である。この構築により、学生の多様な学習目標と学習形態、学習方法に対応した学習支援が可能となり、学士課程教育の充実と学位の質保証の観点を重視した図書館の新たな役割が展開される。

●蔵書構成の充実

本学が設置する学部・学科、研究科の専門分野を視野に

入れた蔵書構成の充実を図り、学生の学習用図書及び基本図書を広く収集する。また、各講義の学習を補助する参考文献の受入・排架を行う。

●利用者教育の充実

蔵書検索方法を中心とした新入生対象図書館利用説明会の実施や、学習の実態に応じた情報検索講習会を実施する。クラス、ゼミ単位での図書館オリエンテーションの実施についても、これを積極的に展開し、図書館利用に対する学生の意識の向上を図る。

●利用者への情報提供

図書館利用ガイド『LIBRARY GUIDE』(発行：年1回)および図書館報『来・ぶらり』(発行：年2回)を発行するとともに、ホームページを通じて、図書館の利用を促進する情報提供を行う。

2 図書・学術情報を活用した研究支援

●電子ジャーナルや学術データベースの収集

各教員の研究活動を支援するため、従来の図書資料に加え、電子ジャーナル、学術データベース等を積極的に導入する。そのため限られた予算の中でより有益に学術情報を導入・提供できるよう、電子媒体資料の導入に関する方向性についても図書委員会のもとにワーキンググループを設置し、その具体化を計る。

●図書館所蔵資料のデジタル化・情報発信

貴重資料保存調査委員会の下で、古典籍デジタルアーカイブ研究センターと連携し、資料保存と情報提供を目的として、図書館が所蔵する資料(古典籍・貴重書等)のデジタル化の事業を積極的に推進する。

●学術機関リポジトリの運用

本学の学術研究成果を積極的に電子化し、広くインターネット上に公開する。また、広範な利用者に利用される見やすいWebページづくりを推進するとともに、リポジトリシステムの永続的な管理・運用のための環境を整備する。

●貴重コレクションの充実、整理

引き続き、「長尾文庫」をはじめとした本学が所蔵する貴重コレクションの充実を継続的に図る。特に今年度は、大宮図書館が所蔵する「禿氏文庫」について、これまでの研究成果を踏まえ、分野毎に体系化して利用できるように「禿氏文庫目録」を作成する。

3 図書・学術情報利用環境の整備

●資料保存環境の調査・整備

適切な温湿度の管理と定期的な清掃によりリスク(カビ害・虫害等)を最小限に抑えるというIPM(総合的有害生物管理)の考え方にに基づき、各館書庫の調査を行うとともに、中長期的な環境整備計画を策定する。また、現在、カビ害が確認されている図書については、計画的に燻蒸とクリーニング処理を実施する。

- 図書館什器リプレイス

深草図書館において、老朽化の著しい閲覧室の机・椅子等の什器リプレイス(4年計画の2年目)を行い、学習環境の改善を行う。

- 日曜開館等の実施

利用実態と利用者ニーズならびに開館に係る費用対効果を踏まえ、昨年度に引き続き、日曜開館等を実施する。また卒業論文作成時期等の開館時間の延長についても適宜実施する。

- 適切な資料所蔵スペースの確保検討

深草図書館において、狭隘化した資料所蔵スペースを、利用者利便に合致した形で確保するために、具体的な対応策を検討する。

4 図書・学術資料の公開と施設の開放

- 一般市民を対象とした図書館資料の公開

大学関係者をはじめ一般市民を対象として、大宮キャン

パス本館展覧室における本学所蔵の貴重書を中心とした展覧を開催するとともに、深草図書館、瀬田図書館においても、所蔵コレクションの定期的なミニ展覧を開催する。

- 滋賀県下の高校生等への図書館開放

滋賀県立工業高等学校との高大連携に伴う図書館利用の要請等を踏まえ、大学図書館の地域開放政策の一環として、従来のREC会員等に加え、期間を定めて滋賀県下高校生に対して、瀬田図書館を開放する。

- 図書館資料のインターネット上での公開

引き続き「古典籍のデジタルアーカイブ化」ならびに「学術リポジトリの構築」に努め、各コンテンツをインターネット上で公開し、研究成果や学術的価値の高い資料の社会的還元を行う。